

第 25 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザーボード 議事要旨

1 日 時：平成 30 年 3 月 1 日（木） 14：00～15：40

2 場 所：新宿住友ビル 4 7 階 スカイルーム N o . 5
新宿区西新宿 2-6-1

3 出席者：（委員）

◎ 黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）

○ 戸谷 好秀（独立行政法人統計センター顧問）

兼川 真紀（弁護士）

亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）

斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

横田 信孝 官房審議官

稲垣 好展 管理室長

4 議事次第

（1）「平成 30 年度平和祈念展示資料館の運營業務について（案）」の説明

（2）「平成 30 年度平和祈念展示資料館運營業務計画（案）」の説明

5 議事要旨

（1）「平成 30 年度平和祈念展示資料館の運營業務について（案）」の説明
資料 2 に基づき、事務局から説明が行われた。

（2）「平成 30 年度平和祈念展示資料館運營業務計画（案）」の説明
委託業者から説明の後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

○ 展示に関する英訳に限らず、館内ではトイレや水飲み場の案内、館外では資料館へのアクセスの英訳を充実させることも重要である。

○ 展示などの英訳を進めるにあたり、専門用語を使わず、誰もが知っている言葉を使い、内容がきちんと伝わるよう工夫していただきたい。

- 若者が情報収集するインターネットに資料館紹介映像を掲載することはよい宣伝になる。しかし、映像の一部を切り取って別の形に編集されることもあるため注意する必要がある。
- 漫画は若者にとって親しみやすいものであるため、大学で漫画の展示会を行うと大学生が資料館に関心を持つきっかけになる。また、大学生参加型の展示を行うと、戦争体験者の労苦について理解を深めることにもなるだろう。
- 語り部お話し会では事実誤認がないように話の確認を、表現者による語り継ぎでは事実がきちんと伝わるような台本作りを、引き続き行っていただきたい。
- 常設展示の情報を盛り込んだガイドブックを作ってはどうか。A5版など持ち運びやすい大きさで作ると、様々な場面で活用できる。また、内容を工夫することにより、資料館活動の記録を残すことにも繋がるだろう。
- 来年度はアートという切り口で展示会を実施するとのことだが、音楽という切り口でも、戦争のことを分かりやすく伝えることができるのではないか。
- 今後も、地方にある戦争系の展示施設と情報交換したり、記憶の継承を目的とした交流が継続できるよう積極的に働きかけて行っていただきたい。